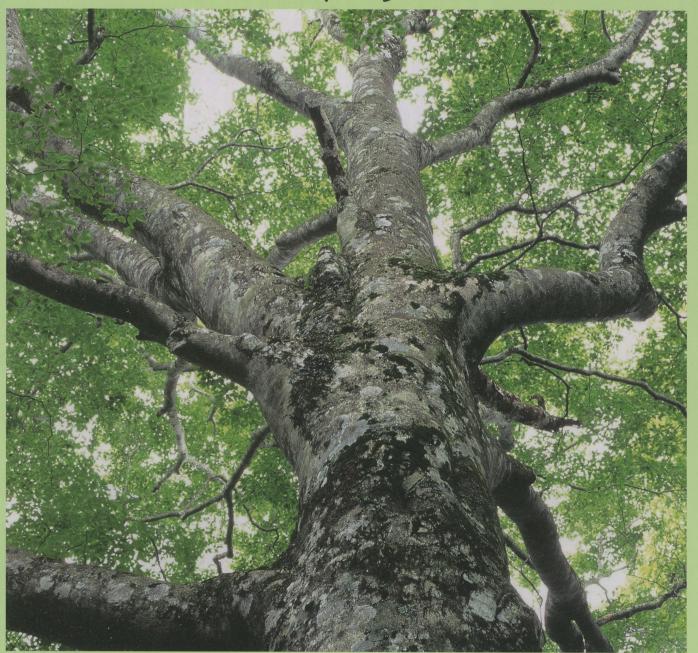
## 源流の四季

第21号 (2006年4月) 春 nttp://www.tamagawagenryu.net E-mail:genryu@mxa.cosmo.ne.jp 発行責任者/中村文明 協 カ/多摩川源流協議会(甲州市・奥多摩町・丹波山村・小菅村) 多摩川源流観察会 印 刷/(株)サンニチ印刷

発 行 所/多摩川源流研究所 〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村4383 TEL 0428 (87) 7055 FAX 0428 (87) 7057



ブナの女王・小菅村(撮影:中村文明)

#### Contents 目次

| 多摩川源流自然再生協議会      | .2 |
|-------------------|----|
| 協議会の全体構想・実施計画(案)  | .3 |
| 全国源流の郷協議会幹事会      | .4 |
| 第21回多摩川流域セミナー     | .5 |
| JTが企業の森づくりへ       | .5 |
| 多摩川下流の水害(4)       | .6 |
| 平成18年度イベント案内      |    |
| 源流塾「多摩川源流百年の森づくり」 |    |
|                   | -  |

# 「源流らしさ・小菅らしさ」の復元めざし

#### 練り上げよう 全体構想・実施計画を

家、環境省、国土交通省、山梨県の 多摩川流域の市民、川や森の専門 協議会には、地元小菅村の委員や 回多摩川源流自然再生協議会が、 代表など37名が参加した。 3月7日小菅村役場で開催された。 源流らしさの復元をめざした第6 森林再生や源流景観再生など

構想はこれからの森づくりの教科 れが遅れている。この協議会の全体 からスギやヒノキなどの森林の手入 の開会の挨拶に続いて小菅村を代 表して奥秋教育長が「林業の不振 協議会では、鈴木真知子副会長



小菅村)

(3月7日

全体討論では、様々な意見や提

書になる。積極的に意見を出して 欲しい」と激励した。

り上げていこう」と挨拶した。 体が参画して合意形成を図り素 晴らしい全体構想・実施計画を練 国的に注目されている。様々な主 議会は、民間主導という手法で全 きいよいよ春めいてきたが、この協 宮林会長は、「昨日は春一番が吹

#### 成果が全国へ 普及することを期待する

とを期待している」と激励した。 ここでの成果が全国に普及するこ され8つが全体構想を確定、2つが 実施計画を策定してきている。小 補佐が、「全国に18の協議会が設置 境省自然環境計画課の岩下課長 全国源流ネットワークも出来ている。 官村は温もりのある村並みがあり、 さらに会長あいさつに続いて環

定(別項)に関する提案を行った。 緯と全体構想策定及び実施計画策 ら自然再生協議会のこれまでの経 先生の入会を承認した後、事務局か 続いて、新しく作家の丹治富美子

案が行われた。主な意見・提言は

□機能再生の視点が大切である。景観 だけでなく河川機能の再生を踏ま

な森とは何かをもっと分かりやすく 示した方がいい。

□スギやヒノキ以外の森のことについ ている役割を明確にすべきだ。 ての記述が少ない。広葉樹の果たし

社会の実現と流域を視野に入れた

をもつと明確にすべきだ。

組みを写真展や森林再生フォ 始まっている。こうした取り

ーラムで紹介することがねら

する目的とは何か。特に広葉樹の森 苗を事業化することが大切。地域の 特性のブランド化を図るべきだ。

□森林再生の目的の中に多摩川源流 の森が水を育むという視点を強調

□今までの発想にない活動の展開が求 められている。流域の自治体間の事 業を盛り込むべきだ。

市民、森林組合、国、企業など 法に基づいて専門家、流域の 摩川源流では、自然再生推進

|全体構想の目的の中に、持続可能な

□小菅らしいとは、地域性を生かすこ □誰がやるのか、予算はどうするのか とである。自家生産、自家消費を基

□適地適木という観点から地域性の

□環境公益林を造り出していく政策が これから非常に大切になる。山梨県は 来年度からこうした森作りに取り組む

電力館で開催された。現在多

ンと創作 たデザイ 木を使っ

にこだわり、

「森の鼓動」写真展(3月

源流・森林再生フォーラム

□小菅らしいとは何を示すのか、健全

観点をもつと明確にすべきだ。

くことが大切である。 本に据えてここで強い森を育ててい

」広葉樹の価値とは何か、森林を整備 の価値の再発見を明確に打ち出す

ある神谷博さんの企画による で源流研究所の運営委員でも どの木で飾り付けられたこと である。これは法政大学講師 官の広葉樹やスギ・ヒノキな 力館二階のギャラリーが、小 いであった。 今回の写真展の特徴は、電

真作品は、 村所長の写 もので、中 小菅の木で

の舩木幸一さんや大工の舩 運び、山主 菅に足を 何度も

真展にこぎつけたもの。 メージを膨らませ、今回の写 加章さんと出会ったことでイ

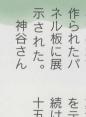
進められているが、昨年七月、 ロジェクトなどの取り組みが 協議会が設置され森林再生プ の参加による多摩川自然再生

この協議会に東京電力が参加

して森林再生の新しい胎動が

あった。 今日もきた」と何回か写真展 の表情が素晴らしい。撮った 写真を見せてもらった。自然 近くに住むという方が「良い に足を運んでいるとのことで 人の思いが込められている。 来場者の表情も明るかった。 た会場は木の香りであふれ、 小菅の木をふんだんに使っ

続けてきた冬から春の作品が をテーマに、中村所長が撮り れぞれ行われた。写真展では、 再生フォーラムは十八日(フ 十五点ほど展示された。 知られざる多摩川源流の四季 オーラムは次号で紹介)にそ 二十一日までの六日間、森林 写真展は、三月十六日から



東京電力が「森の鼓動」写真展を開催

議会で確定する運びである。多くの方々の提案、意見を期待している。 施計画(案)がそれぞれ提案された。各方面の意見を集約して六月に予定されている第七回自然再生協 三月七日に開催された第六回自然再生協議会では、多摩川源流自然再生協議会全体構想(案)と実

#### はじめに

く変貌し、存続が危ぶまれる厳し 歴史文化的環境は、高度に発達し い状況になっています。 た資本主義社会の中にあって大き できました。これらの優れた自然的、 に恵まれ、多様な源流文化を育ん 多摩川源流は豊かな自然環境

めに多摩川源流の自然再生に取り 気のある源流らしさを構築するた 境を修復 (regeneration)して、元 多摩川流域社会の発展に欠かせな 環境は再生(rebirth)し、壊れた環 れた自然環境を保全し、失われた (reproduction) するとともに、優 い多摩川の自然環境を再認識 私たちはこうした現状に鑑み、



及ぶが、先ず、源流域の山梨県小 菅村を中心に進めることとします 対象区域は多摩川流域全域に

#### 自然再生基本方針 ~ 「源流らしさ」の再生~

「源流らしさ、小菅らしさ」の里 づくりをめざします

「自然に学び、自然と共生する 資源循環型の里づくりをめざ の里づくりをめざします 「安全で、健康で、豊かな」源流

### 自然再生全体構想

次の3つの部門を設けて再生事業 を進めます 源流らしさ」を再生するために

、源流景観再生構想

→森林資源景観再生、 河川景

1) 自然 (みどり) や川と人の関 くりを進めます わりが見えるような景観づ

2)人の生業と生きる知恵、川の 遊び、自然体験や文化体験

> などが有機的に連結する場 として再生します

3) 家並み景観・町並み景観・神 観図にまとめます 仏閣景観などの現状を景

)各地区の現況を調査しなが ら再生の場所を選定します

源エネルギー循環 森林再生構想 森林再生、森林資源循環、資

1)人と山とのかかわりを再現 します

3)小菅村らしい森林造成します 2)森林資源の循環を再現します

山取りをした種や稚樹の苗 および森林資源管理計画 したGISによる資源調査 木の育苗、村有林をモデルと

下流域の住民や民間からの支 それに基づいた森林再生事 業などを進めます

る森林再生事業を進めます 援など森林ボランティアによ

3 、源流文化再生構想 源流体験の再生、環境教育の ◆源流文化や芸能·工芸の再生

> 1) 昔からの人と自然のかかわ 生します りを再現し、技能・文化を再

2) 小菅村の食文化を再現し、 →これからの食育教育へ発展 させます

\*本物から得ること、得るもの はなにかなど源流文化を再 生します

3)森林や河川を活用した自然 環境教育を再現し、

→「生きる力」を養うこととは、 流教育を再生します 生業や人の知恵とはなど源

4)祭りや歳時記など源流体験 を再現し、

→先人の知恵と技を再生し

5)森林育のすすめ、木育のす 新たな源流文化を生みます すめ、源流学のすすめなど

## 自然再生実施計画

、源流景観再生実施計画 →宮川再生事業

基本方針

①里の自然づくり…自然素材の 利用、人工物の撤去、人の営みと 自然との関係

②優しい源流づくり…源流は厳し いところ いだけではなく人と自然に優し

③小菅らしさ…各集落や自然の 「らしさ」が集合し小菅らしさ

2、森林再生実施計画 →源流100年の森再生事業

## →東京電力との連携事業

②森林の機能と役割に応じて3 ①森林施業は長伐期あるいは非 つにゾーニング 皆伐方式を基本とする

踏まえた人づくり→山づくり、 森林経営をつなぐ線の役割

③村外、村内それぞれの役割を

3、源流文化再生実施計画 基本方針 →21世紀の人材育成事業

①自然と共生する生活を基本と した「源流の里」づくり

③源流域に残された連帯感や自 ②1の方針を理解し、源流が好き 然とのつきあい方を見直す な人を村に呼び込む →ファンクラブなどの組織

④小菅村で行われている活動のネ →多様な活動クループとの連携 ットワーキング →源流文化の再生と発掘

⑤源流文化を売り出すシステム化 →「21世紀の人材育成

4、今後の課題

③財源をどうするか ①村民の参加を促すにはどうす ②下流域へのPR方法 ればよいか

# 全国源流の郷協議会幹事会開催

オブザーバー参加した。 事が参加し、多摩川源流研究所が 菅村、道志村、島根県吉賀町の幹 で開催された。幹事会には、地元の 置する奈良県吉野郡天川村役場 事会が、3月1日、熊野川源流に位 大川村、宮崎県五ヶ瀬町、山梨県小 全国源流の郷協議会の第1回幹

現状と課題に関する話題提供を 研究所の中村所長が、源流を巡る 協議会をもっと大きくしよう」と 間の交流と連携を広め、源流の郷 歓迎の挨拶を行った。続いて、源流 すると共に、源流を抱える自治体 が「源流の持つ魅力や価値を探求 幹事会では、天川村の西岡参事

協議事項では、事務局の青柳課



を確認して幹事会を終わった。

の提案を了承し、来年度の総会で 取り組みたい」と提案、幹事会はこ 向けた懇談会の開催と政策提言に 源流の郷協議会の最重要課題であ る。来年度事業として源流再生に 流をどう位置づけるか。今後のあ と共に平成18年度事業と予算に関 ついて報告、これを審議し確認する 長が、平成7年度の事業と予算に して意見交換した。青柳課長は、「源 体化することになった。 方を含め政策提言を行うことが

の組織をもっと大きくしていくこと が出され、最後に源流の郷協議会 動が今後重要だ」など様々な意見 再生モデル事業を国に要請しよう。 業の活動の事例が知りたい」「森林 被害を被った。森林を守る、山を守 めている。源流景観を良くする活 後、企業との連携が必要であり企 ることの大切さを痛感している。今 議会を作りたい。小菅の経験を教 守 源流の価値化の大切さを痛感した えて欲しい」「今年の台風で深刻な 「洞川で景観を良くする活動を進 「源流への考え方が大きく変化した。 一村の取り組みに学び自然再生協 れるかという危機感がある。小 さらに、各幹事から「源流文化を



吉賀町長

うねりとなることを願ってやみません。 ピールし、力を結集し、さらに大きな 解決するためにも、広域的なネットロ 労働力を都市に供給し続けているのが た共有する諸課題を具体的に整理し 国民的合意が緊急課題です。こういる する時といえるでしょう。森林再生の も、森林の荒廃は非常事態宣言を発信 です。国土保全という大きな観点から 都市住民は源流の維持を使命とすべき れわれの使命であるならば、下流域の 未来に伝えることが源流域に生きるわ 折々の美しい景観、山里の文化を守り 問われています。自然が織り成す四季 ありません。都市と地方との関係、そ 地方であるといっても決して過言では 水や食料、新鮮な空気、貴重な人材や 活者が安心して口にすることのできる 齢に喘いでいるのが現状です。都市生 るすべての自治体が過疎による少子高 弊は深刻です。とりわけ、源流を有す 云われながらも全国の農山漁村の疲 ろであります。一方では、地方の時代と 見出すべく懸命の努力をしているとこ 中で、あらゆる英知を結集し、活路を タートを切りました。厳しい諸情勢の 木村と六日市町が合併して新たなス えるでしょう。吉賀町は昨年十月に柿 珍しく、まさにわが町は水源の町とい けて日本海に流れています。一級河川の 町の大蛇ヶ池を源に流路八二十月日をか して、今まさに地方の存在そのものが 水源が特定できるのは全国でも極めて 河川高津川は私どもの住んでいる吉賀 クが必要です。この思いを全国にア 本流にダムのない川で知られる一級

#### 参加・連携・協働の源流の郷づくり運動」の展開 = 「全国源流の郷協議会」設立の趣旨 11 を

恵みを与えると共に、私たちの生活 民族は有史以来美しい国土と自然21世紀は環境の世紀です。日本 えてきました。 き方や自然観にも大きな影響を与 や文化と密接にかかわり、人間の生 ちに水やきれいな空気など多くの 息づいているのが源流です。豊かな の国土の原風景が最も素朴な形で をこよなく愛し続けてきました。そ 森林に覆われている源流域は、私た

の管理ができなくなるなど、源流に 村は吸収合併され、「源流」の看板合併のもと、人口の少ない源流の町 住む人々だけでは山や森が守れな うくなっているばかりか、スギやヒノ 役割を担う基礎自治体の存立が危 や文化を維持するための中核的な 急速な過疎化・高齢化が進展して を降ろさざるをえない地域も増え い現状にあります。また、平成の大 キなど人工林をはじめとする森林 おり、河川の最上流部に於いて生活 ところが、全国各地の源流域では

はならない共有の宝物です。かけが たちが協働して保全することが何 域の視点に立って、源流に暮らす人 えのない財産である源流資源を、流 流の資源は、私たちにとってなくて 河川の多様な機能の恩恵に浴してい よりも大切になっています。 と源流の恵みを共有し享受する人 ます。とりわけ水や森林などの源 私たちは、いずれかの流域に属し、

多様性の確保、地球温暖化防止な どの面で、特に重要な役割を担って まる中、水資源や国土の保全、生物 いる源流の郷で、自然環境を守りな 地球環境問題への関心が益々強

> 全国各地の源流の郷が心を一つにして がら安定した生活が持続できるよう、 参加・連携・協働の源流の郷づくり

私たちの知恵と力で守り、次の世代 始めましょう。源流の貴重な財産を を持ち、県境や流域を越え、直接に に残そうではありませんか あるいは間接に源流へ支援の行動を 範な人々が、地球の一員としての自覚 ために、文化を守り自然を愛する広 かけがえのない源流資源の保全の

づくりと源流資源保全のために次の 店動を開始します。 全国源流の郷協議会は、源流の郷

- 1)市民・企業・学識者・行政など広 動」の展開 連携・協働の源流の郷づくり運 範な人々の参加による「参加・
- (2)NPO法人全国源流ネットワー ク等との連携による源流域の持 つ価値や役割などの調査・研究・ 情報発信活動
- )流域保全の視点に立つ森林再生 ための新たな特別制度の創設 ノロジェクトの推進と事業推進の
- 源流再生に向けた懇談会の開 催と政策の提言
- 取り組みを進めます。 (5)全国源流の郷協議会の組織強化 の5課題を掲げその実現に向けて

強力かつ積極的に国民運動を展開 参加を心より求め、目的達成のため、 趣旨に賛同する源流域の市町村の していくものです ここに全国源流の郷協議会は、本

賜りますよう重ねてよろしくお願い 申し上げます。 皆様方の格別なご理解・ご支援を

平成17年11月30日 全国源流の郷協議会

# 一川づくりフォローアップー

# 第二十一回多摩川流域セミナー開催

# 好評!ポスターセッション

た。川づくりをみんなで育てるため の重要性を強調した。 は「汚かった多摩川がきれいになっ 拶を行った長島保TBネット代表 のフォローアップが行われた。開催挨 ま・が・わ、フォローアップ!川づくり 今回のテーマは「みんなで育てる"た・ 回多摩川流域セミナーが開催され と市民と行政が協働していくこと にも市民の側から提言を行ってゆく」 計画」で多摩川水系河川整備計画 流域市民など五十名が参加した。 ンアカデミーホールにおいて第二十 一月十九日に東京農業大学グリー

今回の流域セミナーの目玉であ

■ポスターセッションの様子 (第21回多摩川流域セミナ

るポスターセッションは、多摩川水系 ポスターセッションで取り上げられ 張り付き、説明や質問に答えていた。 うというもの。各アクションには行 行き、取り組みの説明や質疑を行 者は自分の興味のあるアクションに とに資料ポスターが掲示され、参加 たアクションは以下の通り 政の担当者とそれに関わる市民が 河川整備計画の五つのアクションご

### ★アクション1

戦後最大規模の洪水を治水の目 標にします。

#### 実現します。 「多摩川流域リバーミュージアム」を

★アクション2

協働の維持管理を行います。

### ★アクション3

水流実体解明プロジェクトで水 流の調査・研究を行います。

★アクション4

### **★**アクション5

スーパー堤防の整備を進めます。 いうやり方では参加者が興 味のある内容についてより 深い議論ができたと好評だ った。また、多摩川で活動 今回のポスターセッションと

という意見が述べられた。 のポスターセッションもやってみたい する市民団体からは、市民団体版

# 情報と人の交流が鍵

セッションの他に、流域からの話題提 今回の流域セミナーではポスター

> 多摩川源流研究所長の中村氏や の交流と人である。」と語り、この は「川づくりに重要なものは情報 拶に立った京浜河川事務所森所長 みなどについて報告した。閉会の 京浜河川事務所藤田氏が取り組 供として昭島水辺の楽校の西山氏 に意欲を示した。 ような取り組みを続けていくこと

会場に掲示されたポスター(アクション2)

# Tが森づくり活動開始 JTの森

小菅

調印

小菅村村有地で 13 haの混交林づくり

保全活動を行う「JTの森 峠付近村有地13haの植林/森林 こ産業株式会社(以下JT)が鶴 小菅村は三月九日に、日本たば



した。 の調印式が行われ、契約を締結

県中辺路町に続き、二番目となる。 の恵みが欠かせないことから植林、 自然由来の原材料を使用し、自然 どを展開しており、これらの事業は でのJTの森づくり活動は和歌山 森林保全活動を実施する。小菅村 JTはたばこ・医薬・食品事業な

有地にミズナラなどの広葉樹林を 北都留森林組合などが協働し、村 葉樹林である。今後、JT、小菅村 地の現況はカラマツを中心とした針 植栽し、針広混交林化を図っていく。 『JTの森 小菅』となる村有

## 環境教育にも活用

は多摩源流を守るという観点から 調印式で廣瀬小菅村長は「村で

> 説明した。 要性に鑑み、自然環境を保全すべ 自然への感謝と地球環境問題の重 を評価した上で、「事業を支える 生協議会の設立など小菅村の活動 と感謝と展望を述べた。また、堀田 共に利用したいと思っています。」 暁には環境教育の場として村民と 森林の間伐などに力を入れてきま く今回の取り組みを行っている」と 始まり感謝申し上げます。完成の した。このような活動が理解され、 JT副社長は多摩川源流自然再 「 J T の 森 小菅』の取り組みが

栽活動などを行う 家族と小菅村の村民が参加し、 五月二十日にはJT社員やその 植

# 摩川下流の水害~其の四~

地域史研究家・多摩川流域ネットワーク代表

## (十二)都市化の進展と水害

発したのだろうか。では、明治後半から大正初頭に

この時期、両岸の流域低地では土 この時期、両岸の流域低地では土 地利用の高度化が進行したものの、 地利用の高度化が進行したものの、 防災対策がなおざりにされていた からだ。つまり、工業化や都市化が からだ。つまり、工業化や都市化が 無秩序に進展し、それが被害を一層大きくした。

先に見たように、当時の多摩川 れた河川ではなく、増水すれば両 れた河川ではなく、増水すれば両 脇に広がる氾濫原を思いのままに 脳に広がる氾濫原を思いのままに 所だった。だから、人びとは散在す る自然堤防などの微高地をえらん で集落を営み、暮らしを立ててきた。 で集落を営み、暮らしを立ててきた。 で集落を営み、暮らしを立ててきた。 でまってきた。 でまってきた。 でまってきってきた。 でまってきた。 とが、いままでのような土地利用の きが、いままでのような土地利用の

件を機に結成された多摩川築堤一四(大正三)年の十月、アミガサ事造陳情書」という文書がある。二九

水害の原因を四点指摘している。ものだ。そのなかに、「近年頻発スル」財成同盟会が、内務省に提出した

橋)の橋柱数十本が、河中に林立り、鉄道院(八七二年開通)の橋柱六個、京浜電気鉄道(二九〇五年柱九個、京浜電気鉄道(二九〇五年柱九個、京浜電気鉄道(二九〇五年開通)の橋村六個、京浜電気鉄道(三九〇五年)の橋



▶ 多摩川河畔にあった明治製糖
□ 「創立十五年記念写真帖」
(「創立十五年記念写真帖」

しており、しかも「三橋八三町以内」というのだ。たしかに、これら多るというのだ。たしかに、これら多数の橋柱は増水時、流下してきた大量の倒木や塵芥などを堆積させて、流水の横溢や破堤をしばしせて、流水の横溢や破堤をしばしており、しかも「三橋八三町以内しており、しかも「三橋八三町以内

また、第四原因として挙げているまた、第四原因として挙げている。砂利採掘だが、これは東京、横浜もの。砂利乱掘が川床を破壊し、もの。砂利乱掘が川床を破壊し、もの。砂利乱掘が川床を破壊し、

さらに、第三原因は堤外地での まらに、第三原因は堤外地での 果樹密植の問題だ。これは明治三 に始められた梨・桃の栽植に当たる。赤梨の王者長十郎の出現もあり、このころから大正期にかけて 多摩川下流域低地は、梨、桃の一大産地となった。その果樹の林立や 産地となった。それが洪水の要を与えてしまい、それが洪水の要を与えてしまい、それが洪水の要となったと指摘している。

接結びつかないが、対岸の堤防補強残り一つは、都市化の進行とは直

工事の問題だ。かつて対岸東京府 程原郡矢口村の下丸子から矢口に かけての沿岸は、無堤の地であり、 水しても両岸に溢れ出ていたので、 被害もさほどではなかった。それが、 二回にわたり、「築堤及上置」や腹 付け工事が施工され、対岸の堤防 が高くなり、三倍も水嵩が増加す るようになった。

保

## (十二)工場進出と水害

年鈴木商店(のち味の素)などが ち東芝堀川町工場)、一九一〇年日 が、次いで一九〇九年の東京電気(の たためだった。 場用地がきわめて低廉に確保でき いう交通の至便性に加えて、広い工 かも多摩川の水運を利用できると きた。東海道線川崎駅に近く、し 多摩川べりへと相次いで進出して での最初の近代工場進出となった いないが、明治四十年代から始まっ 本蓄音器(のち日本コロムビア)、同 精糖(のち明治製糖)は、川崎地方 た沿岸への工場進出の問題がある。 九〇七(明治四十)年操業の横浜 ところで、この陳情書では触れて

年の大水害では、堤防の決壊を招り護岸を強化したり、盛土をしてり護岸を強化したり、盛土をして敷地嵩上げをしたりした。この、工敷地嵩上げをしたりは、盛土をして敷地嵩上げをしてり、成土をしてりでは、工場建設にあた

たのだ。を支えきれずに決壊してしまっを支えきれずに決壊してしまっかの堤防が、逆に増大した水勢

うに指摘した。

「横浜貿易新報」は、次のよ
でに、当時の新聞紙上などに
をがれる。

こととなったのである。(中略) マ六郷(川)の氾濫堤塘の破壊は、三十八、九年の頃東亜製糖(横浜三十八、九年ので水勢一変し、之が為地で築いたので水勢一変し、之が為に、一大郷(川)の氾濫堤塘の破壊は、

▽シテ見ると工業と洪水とは因 縁の深いものであるから、水を利用 は若くは川岸を使用する工業者 に対しては、今後大いに警戒を要 に対しては、今後大いに警戒を要 すると同時に、事に治水に従うも のは、最も工業の水勢を左右する 点を考慮する必要があると思う。 (後格)

出が、水害の規模を一層拡大した出が、水害の規模を一層拡大した

以上のように、大洪水が頻発しい上のように、大洪水が頻発しい、近代工場の進出、市街化の拡大といった都市化の進行があり、たといった都市化の進行があり、大といった都市化の進行があり、大といった都市化の進行があり、大といった都市化の進行があり、大といった都市化の進行があり、大といった都市化の進行があり、大洪水が頻発し、以上のように、大洪水が頻発し、以上のように、大洪水が頻発し、以上のように、大洪水が頻発し、以上のように、大洪水が頻発し、以上のように、大洪水が頻発し、大洋、水が頻発し、

# ・水源林の旅の魅力

## 年で源流を巡る旅

年にコース実施します。 下るじコース。この三つのコースを 峠に向かうAコース。柳沢峠から笠 将監峠から雲取山を経て鴨沢に 取山を経て将監峠に下るBコース 松姫峠から大菩薩峠を経て、柳沢 一年かけて一周する事業(左図)。 源流域を取り囲む山の稜線を 源流古道・水源林の旅」は多摩

から頂いた、「続けて欲しい」との声 道・水源林の旅をAコースから実施 語を体験して頂くために、源流古 致します。 にお応えし、新たな源流を巡る物 語を閉じましたが、多くの参加者 昨年Cコースを行い三年間の物

## 雄大な自然の残る源流域

源林は、水源涵養という目的から 重な地域です 四年から経営が開始された都水 原生状態の森林が残されている貴 林)の中を歩くコースです。明治三 な東京都水道水源涵養林(都水源 源流古道・水源林の旅」は広大

は眺望絶佳なはげ岩や東京都最 然とそこに生きる文化を体感する のコースを走破すると、雄大な自 高峰の雲取山が存在します。三つ 多摩川のシンボル水干。Cコースに はシャタナゲで有名な三窪高原や の交易の要所大菩薩峠。Bコースに ことが出来ます また、Aコースには巨樹やかつて

## 松姫峠から始まるAコース

や源流域の山嶺を一望できる天狗 でしょうか また、Aコースの一部はかつて多摩川 の頭など雄大な景色が楽しめます となります。コース中にブナの巨樹 り→石丸峠→大菩薩峠→柳沢峠 に思いをはせて歩いてみてはいかが と富士川を結ぶ交易の道の一つでし 。荷を背負いながら歩いた先人 Aコースは、松姫峠→牛の寝通

多摩川源流を1周する源流古道のコース DH 舑 9月15日(金) ~17H(H)

合 JR奥多摩駅

源流古道・水源林体験の旅

大菩薩峠

松姫峠 (1,250)

用 25.000円(宿泊費二泊六食付・保険料・その他)

tel: 0428 - 87 - 7055 fax: 0428 - 87 - 7057

将監峠

雲取山荘

25名(参加者多数の場合は抽選となります)

水場

い合わせ・お申し込み】

小菅村役場源流振興課

FAX.0428-87-0933

★秘境・妙見五段の

滝を訪ねて

日時 八月二十六日(土)~ に来ませんか。

ることのできない本物の源流を見

■期間 七月~九月

ガイド付きツアーでなければ見

元の人しか知らない道を通ってや ツアーです。妙見五段の滝へは地 源流にある妙見五段の滝へ向かう

多摩川に流れ込む小菅川。その

っとたどり着くことができます。

一十七日(日)

費用 一万五千円 JR奥多摩駅

(宿泊費」泊四食付・保険料・その他) 六十九歳以下で山歩きに

二五名 自信のある方

お問い合わせ・お申し込み 参加者多数の場合は抽選となります。

小菅村役場源流振興課 AX 0428-87-0933 **2**0428-87-07

#### ×源流体験教室 開催団体募集

など二十団体が源流体験教室を実 す。昨年は教育委員会や市民団体 体験教室も受付を開始しておりま 毎年好評を頂いております源流 施しました。

ど命を知る体験活動もあります。 を体験した子どもは目の輝きが違 で源流体験教室を開催しておりま 知って欲しい。そしてその素晴ら います。また、マスのつかみ取りな す。源流の渓谷の深さ、水の冷たさ しさを体験して欲しいという思い

下さい。 りますので、まずはお問い合わせ キャンプ場などの宿泊施設もあ

■お問い合わせ ■体験場所 多摩川源流·小菅川 源流体験ゾーン

多摩川源流研究所 0428-87-7057 **3**0428-87-7055

#### メ小菅の湯 アクセス便利に

原駅から富士急バスが出ます。季 節限定(四~六月、九~十一月、土 休日のみ)。時間は以下の通りです。 上野原駅(8時28分) 多摩川源流小菅の湯へJR上野

分発)→小菅の湯(13時37分) →松姫峠(10時13分着·13時15

小菅の湯(16時30分) 小菅の湯(15時20分) →上野原駅(16時40分)

■詳細についてのお問い合わせ 上野原駅(17時5分)

**3**0428-87-0888



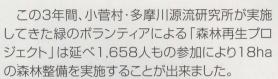
子ども達に本物の自然を

#### 源流塾「多摩川源流百年の森づくり」



#### 第1期塾生募集





2006年からは、自然再生推進法に基づいて 設置しました産・官・学・民の連携による「多摩川 源流自然再生協議会」により、「森林再生」「源流 景観」「源流文化」の視点から自然再生全体構想 と実施計画が策定され、いよいよ事業実施に向け て始動いたします。

「森林再生プロジェクト」は多摩川水源の森 100年の歴史を礎として、森林資源の循環利用 と保全による持続的な森林経営を目指し、「多摩 川源流百年の森づくり」を目標として掲げました。 この道を拓くため、「源流古道再生プロジェクト」を開始いたします。源流古道に隠された「森・人・くらし」をつなぐ知恵や、巨樹や草木に秘められた歴史や文化をひもとき、「源流の木」の魅力を発掘し、荒れた古道の整備を進めることにより、森とともに生きる道筋を拓きたいものです。

多摩川源流を育んできた「百年の木」を大切 に使い、そして育てる「百年の森づくり」。

自然再生協議会の専門家による体験講座を通して、源流の文化や歴史に学び、「百年の森づくり」源流塾の第一期生として、源流の価値と未来を探求してみませんか。

- ■主 催 小菅村·多摩川源流研究所·多摩川源流自然再生協議会
- ■共 催 東京電力株式会社
- ■協 力 北都留森林組合·東京農業大学
- ■場 所 小菅村内の林地
- ■講師 宮林(東京農大)、菅原(東京農大)、神谷(法政大)、丹治(作詩、脚本家) 木下(森の名人)、舩木(建て方名人)、中村(多摩川源流研究所) 他
- ■年間活動日(定員はいずれも25名)
  - ・第1回 5月27日(土)・28日(日) 村の古道の歴史を振り返り眠っている古道の全体像を学ぶ。
  - ・第2回 7月 8日(土)・9日(日) 古道整備計画の策定のための現地調査と基本測量を学ぶ。
  - ・第3回 10月14日(土)・15日(日) 広葉樹苗育成のため種子と実生苗の採取を学ぶ。
  - ·第4回 11月11日(土)·12日(日) 古道の再生作業のポイントについて学ぶ。
  - ・第5回 12月 9日(土)・10日(日) 古道の再生作業と間伐材を使った治山工法を学ぶ。
  - ※第1、2回と第4、5回からそれぞれ1回以上参加された方は、終了証として「古道絵図」にあなたの名前を刻みます。
- ■年 齢 18才以上69才以下の健康な方
- ■日 程(1日目の昼食・飲み物及び着替え、タオル・雨具は準備してください)
  - ・1日目 10時/JR奥多摩駅集合(送迎バス有)・13時~17時/調査・体験など
  - ·2日目 9時~14時/調查·14時半~/入浴·16時30分/JR奥多摩駅解散
- ■参加費 各回12,000円(講義料一部、保険加入・宿泊・食事含む)
  - ※学生は6,000円(実費)です。
- ■参加申込先 小菅村役場·源流振興課 0428-87-0111 青柳 諭